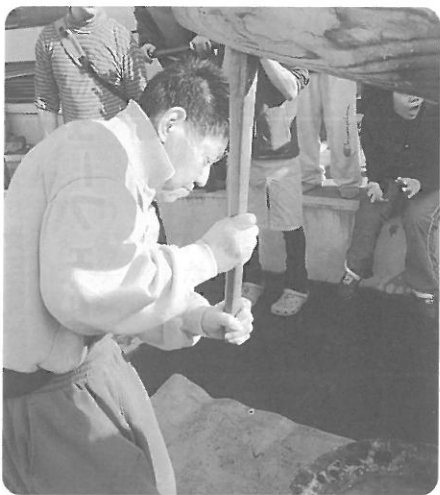




外出も計画します。仲間と話し合いの時間を持ちどこへ行くか、何をしたいか決めていきます。

体調の変化を見逃さない

加齢に伴い身体的な配慮がますます必要になることは仕方ない事です。暮らしの場から発信され仕事場でも午前、午後に血圧測定、検温をして変化を見逃さないようにしています。足腰の筋力の低下で歩行が不安定な様子が見られているので作業場の近くの公園に行き散歩したり、仕事場所の空間をフラットにするこ

とで転倒による怪我を防止しています。普段とは違う様子が見られた際は、看護師と連携を取り受診が行える様にしています。その一つひとつを大切にすることで、日々充実して仕事へ向かう仲間の姿があるのだと感じます。

医療的なサポート

昨年度、太陽の里の受診数は886件というデータがあります。内科の受診も増えていますがここ数年増えた受診は歯科と皮膚科だそうです。歯科に関しては内服の影響や加齢により歯の状態が悪化する様子が増えて来たことも原因のひとつとしてあります。皮膚科に関しては集団で生活している中でどうしても他の仲間に移ってしまうという事ややはり治りにくくなっているという事が受診の件数の多さに繋がっています。また、排泄関係での下剤の服用も増えてきています。加齢により自力での排便が少しずつできにくくなってきているのではと考えられます。排便との繋がりもありますが食事の面でも普通食からきざみ食、ほぐし食へと変わる仲間もいれば代謝機能が落ちてきていることから体重が増えカロリーを考えた食事の検討や成人病などの予備軍が増えてきている現状があります。

日常的に医療的ケアが必要になってきているなかで常に看護師が里にいてという事が専門的な知識を得られる安心感と職員のスキルアップに繋がっているのではないかと思います。また、医療機関との連携も大事となります。仲間の事を理解し、障害に理

暮らしの場のあり方(今後に向けて)



解をして下さる医療機関というものは中々見つかりません。幸い太陽の里の近くにある総合病院の先生と連携する事ができ、何かあった時は相談できるようになりました。それも何度か根気強く仲間の事や障害のことを話し伝えてきた歴代の先輩職員や看護師の力が大きいのではないかと思います。何かあった時に相談できるといことは仲間を支えていくうえでとても強みとなっています。



取りに立ち会うことがありましたが仲間の人生にかかわり、最後までよい人生を全うするために、それを支援する仕事に携わる私たちには避けては通れないものであると思います。が、今まで行ってきた事を大事に仲間が『よかった』と思える人生を送れるように支えていきたいと思っています。また、医療的な面でのサポートも大切ですが余暇的な面での充実も必要だと感じています。楽しみがあつて仕事や暮らしの充実につながると思います。仲間個々の想いや願いを汲み取りながら充実した人生を一緒に築いていきたいと思っています。

太陽の里職員 小寺 直人
星原 直美

おひさま通信

仲間が歳を重ねるという事

太陽の里

太陽の里が開所して23年。20歳前後だった仲間も40歳を超え、平均年齢が44歳となっています。高齢を迎えつつある里の仲間たちの暮らしの支え、仕事などどう配慮して仲間の豊かな暮らしを支えていくのかという事が課題として上がっています。

日常の暮らしから見えてきた変化

横山さんは現在46歳の女性です。脳性小児麻痺による全身不随がみられ右足の尖足があり、歩行が不安定です。ここ数年歩く事を嫌がる様子が現れ以前より長距離の歩行が難しくなっています。少しでも体力の維持と歩く事を頑張つてほしいと思いい、棟内では大好きな本を運んでもらう時や仕事に行く移動の際はなるべく自力で歩いてもらうように声をかけたり、リハビリを行っています。

それでも歩く距離は短くなり、外出や一泊旅行などの遠出外出は車椅子の利用が増えていきます。自分で歩き、自由に本を取りにいけると、誰かの助けを借りなければならぬのは、本人の自由度はかなり変わります。高齢にともない、いろんなことに支えが必要になってきます。

本棟北に所属する富澤さんは里の男性の仲間では最高齢の63歳です。4年前になりますが歩行の不安定が目立ち転倒する事が増えてきました。トイレの失敗も目立ち始め寝る時はオムツの使用も始まりました。現在は日常的にオムツを使用しています。自分が自分でトイレに行くという事を大事に定時の声かけをし、トイレに行くという事を意識してもらっています。その他に、色々な仲間の物を集めることや、衣類や紙類などを破いては捨てるという事を繰り返し行う様子から何か原因があるのではな

日中活動の支え



太陽の里の仕事グループの一つである『きれいな雑貨屋さん』は、高齢の仲間にも配慮した仕事内容を考えて作られた班です。所属している6名の仲間のうち、太陽の里最高齢の69歳の藤倉さんをはじめ、63歳の富澤さん、62歳の平野さんと半分の仲間が60代です。他の仲間も50代、40代、30代と壮年期から高齢期にかかっています。(3名が加わり、合計6名のグループです。)

現在行っている仕事は『マイエンザ』製造を中心とし、合間に紙すきなど小物の製作を行っています。60歳を過ぎた仲間の仕事については、仲間自ら『引退だ』という仕事をやめることもありましたが、いつまで働くのかという事は職員の中で何度も議論がされてきましたが、やはり『働く』ということは賃金を得るだけでなく地域社会とのつながり、仕事を通して評価される事での自信や生きがいにつながるのではないかと思います。同時に、加齢に伴った体力の低下や、身体的な配慮が必要になってきた中で、仕事を沢山こなすという事よりも、仲間の集団意識を大切にしながらひとつの事を一緒に作り上げることを大事にした仕事を考えてきました。

頑張ることと楽しむことを大切に

仕事場面はもちろん大切に取り組んでいます。そこに楽しみの要素も混ぜ込んで進めています。『マイエンザ』を使った野菜や花の栽培がそのひとつです。作業場に着くと皆でマイエンザを希釈した水を野菜や花のプランターに撒いて1日が始まります。野菜の生長を感じたり、出来上がった野菜を食べたりもします。皆で作ったものを食べる楽しさを共有することを大切にしています。また、年に数回、日頃の労を労いあう意味や楽しみの要素を取り入れた